令和７年度　丹波篠山市立　多紀小学校

学校だより

丹波篠山市草ノ上 108　TEL558-0116　fax558-0260　令和７年4月号　No.1

春・・それぞれの２０２５年度

校長　安井　健二

ふるさと多紀の里に春が戻り、一面、春の装いになりました。

私も多紀小学校に赴任し、校庭、そして周辺の土手を歩いてみると、新学期を迎える子どもたちを応援するかのように桜が咲き、タンポポが咲き乱れていました。本年度、校長として赴任しました安井健二と申します。福住・村雲・大芋の３小学校が統合し、地域の方々に支えられながら１０年という節目を迎え、そして何より人懐っこく笑顔あふれる子どもたちが集う多紀小学校に赴任できたことを心より嬉しく思っています。児童、保護者、地域、職員（学校）との全方向的信頼関係を築きながら、子どもたちの「できるかな？」という気持ちを「やってみたい」「できた！」という気持ちに変えられるよう、全力で取り組んでいきたいと思っています。

さて、イソップ童話の「ウサギとカメ」の話は、多くの方がご存じではないかと思います。ある時、ウサギに歩みの鈍さをバカにされたカメは、山のふもとまでかけっこの勝負を挑みます。かけっこを始めると予想通りウサギはどんどん先へ行き、とうとうカメが見えなくなってしまいました。ウサギは少し疲れていたので、少しカメを待とうと余裕綽々で居眠りを始めます。その間にカメは着実に進み、ウサギが目を覚ましたとき見たものは、山のふもとの先にゴールして大喜びをするカメの姿であったというお話です。

そこには、過信（自信過剰）して思い上がり、油断をすると物事を逃してしまう。 逆に、能力が弱く、歩みが遅くても、脇道にそれず、着実に真っ直ぐ進むと、最終的には大きな成果を得ることができるということを私たちに教えているのだと言われています。

しかし、ふと学校現場に目を向けてみると、ここに出てくるウサギとカメもいれば、スタートダッシュもよくゴールまでいち早くたどり着いてしまうウサギやスタートから苦労をしてもなかなかゴールに到達できないカメがいるといったように、個性も興味・関心も違う子どもたちが人数分在籍しているのが学校です。

そうした状況の中で、「どのようにしたら子どもたち一人一人が学級の中で切磋琢磨し、より満足感と達成感を感じさせられるのだろうか？」という疑問が生じます。そうした疑問を解決するために、日頃の授業を含めた学校生活の中で子どもたちに論理的思考、論理的表現をさせながら、２つの学力（数値的学力と生きる力）をハイブリットに向上させることを目標に取り組んでいきたいと考えています。

そして、最終的には「主体的」で「対話的」な取組を実践し、それを「個別最適で協働的な深い学び」につなげ、予測困難な時代を生き抜く力を付けさせたいと考えています。

余談ですが、前述のイソップ童話の「ウサギとカメ」の話の続きを、小学校の教科書にも収録されている有名な童話である『モチモチの木』等の作者である斎藤隆介さんが「まけうさぎ」という絵本として書かれています。カメに負けたウサギは恥さらしだということでウサギ仲間から追われましたが、そのウサギたちを狙うオオカミを、知恵を絞って撃退し名誉挽回するという筋書きです。

多紀っ子が一度の失敗で屈するのではなく、頑張り続ける「強い生きる力」も身に付けてくれることを願いつつ、応援し続けたいと思います。